

4つの基本目標と政策パッケージ

基本目標 1 地域経済支援 による しごとづくり	新規町内就業者数を 現状値 (令和5年度) 57人 目標値 (令和7～11年度) 132人	政策パッケージ (ア) 包括的創業支援の推進 (イ) 福祉サービス産業の活性化 (ウ) 農林業の成長産業化 (エ) 新規就農・就業者への総合的支援
基本目標 2 京丹波町への ひとの 流れづくり	交流人口を 現状値 (令和5年度) 1,396万人 目標値 (令和7～11年度) 2,086万人	政策パッケージ (ア) 移住・定住のトータルサポート (イ) つながりづくりの推進 (ウ) 地元学生定着促進プランの推進 (エ) 自然環境を活かした観光の推進
基本目標 3 地域総がかりで はぐくむ子育てから ひとづくり	子育て世帯数を 現状値 (令和5年度) 715世帯 目標値 (令和11年度) 715世帯	政策パッケージ (ア) 若い世代の就労・結婚・子育て支援 (イ) 地域で子どもをはぐくむネットワークづくり (ウ) 親子が安心・安全な環境の整備 (エ) 子育てしながら働きやすい環境の整備
基本目標 4 豊かな暮らしを 持続可能にする まちづくり	地域幸福度を (幸福度・満足度に 関する各数値の平均) 現状値 (令和6年度) 5.5 目標値 (令和10年度) 6.0	政策パッケージ (ア) 環境づくりの推進 (イ) デジタル技術を活かしたサービスの向上 (ウ) 多世代交流拠点整備の推進 (エ) 安全な生活基盤整備 (オ) 「災害の少ないまち」での防災まちづくり (カ) 持続可能な地域（ふるさと）づくりの推進



第3期 京丹波町まち・ひと・しごと創生総合戦略【概要版】 (令和7年3月)

発行：京丹波町
編集：京丹波町総務部企画情報課
住所：〒622-0292 京都府船井郡京丹波町蒲生蒲生野 487 番地 1
TEL：0771-82-0200（代表） ／ FAX：0771-82-2700

日本のふるさと。 自給自足的循環社会 京丹波

第3期 京丹波町 まちひとしごと 創生総合戦略

概要版

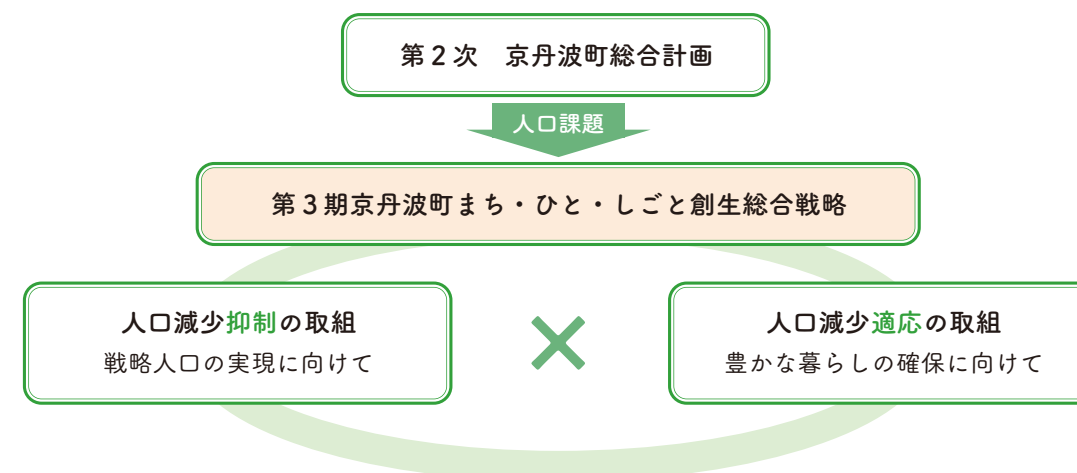


京丹波町は
持続可能な開発目標（SDGs）を
支援しています。

創生戦略の位置づけ

第3期京丹波町創生戦略は、第2次京丹波町総合計画に記載する「人口減少社会と少子化・高齢化の進行」等の主要課題を解決し、将来も活気のある京丹波町を存続させることを目的として策定します。

平成27年に策定した「京丹波町人口ビジョン」で定めた戦略人口を目標に各種施策を戦略的に取り組むこととして、その全体像を示します。



対象期間

第3期京丹波町創生戦略の対象期間は、令和7年度から令和11年度までの5年間とします。

令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
-------	-------	-------	--------	--------

第3期京丹波町まち・ひと・しごと創生総合戦略



基本的な視点

地域資源を活用した地域内経済循環と雇用促進

基幹産業である農林業に ICT 技術を活用した産業活性化、起業促進、新産業の創出を行うとともに、人材の発掘・育成を推進し、若い世代の地域定着を図ります。また、町内に働く場を充実させることで、ヒト・モノ・カネの地域内循環を促進します。

タウンプロモーション（地域の魅力発信）を柱としたひとの流れづくり

地域資源・魅力を活用したタウンプロモーションを柱として、関係人口や移住・定住促進支援によって、人口流出の歯止めと人口流入の促進に努めます。交通アクセスの利便性や災害の少ないまちという優位性を最大限に活かして取り組みます。

ウェルネスタウン（身体的・精神的に健康的な生活ができるまち）としての生活環境づくり

このまちで将来にわたって安心して快適な暮らしができるよう、若い世代の就労・結婚・子育て支援等を推進し、ウェルネスタウンとしての生活環境の整備に努めます。また、子どもが心身ともに健やかに成長できるよう、地域ぐるみでの見守り体制の充実を図ります。

誰一人取り残されない持続可能なまちづくり

人口減少への適応の取組として、住民の豊かな暮らしの確保に努め、ウェルビーイング（身体的・精神的・社会的に満たされた状態）の向上を図ります。SDGsの取組やデジタル基盤の整備及びデジタル人材の育成・確保により、誰一人取り残されないための取組を進めます。



基本理念

日本のふるさと。自給自足的循環社会 ●京丹波

本町には、先人から引き継がれてきた里山をはじめとする豊富な森林資源、良質な第一次産品を生産する技術、地域を守り育てる力、おすそわけ文化といった古きよき習慣が残っています。これらを、現在そして未来へ、社会の移り変わりに合わせて、地域づくりや基幹産業をその都度改編していくことが、この地域の安心そして豊かさへつながっていきます。

さらに、その環境の中で暮らし続けることが、住民の地域に対する誇りと豊かさにつながり、まちの中に活気があふれ、元気で楽しい雰囲気が醸成されます。それが、本町に暮らすひとが地域を愛し、また、新たなひとを呼び込む原動力となります。

本町においては、「森林」「食」「子育て力」「地元力」といった財産が強みとなります。これを活かすことで、それぞれの分野における「資源の循環」「暮らしの循環」「経済の循環」「人材の循環」といった効果が生まれ、また、互いに関連しあい影響しあうことで、さらに大きな効果が期待できます。

これを本町では「自給自足的循環社会」と表現し、町民の安心して豊かな暮らしの中に、穏やかでどこか懐かしさを感じられる「日本のふるさと」を目指します。

